

令和6年度 学校評価

そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
<p>1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</p> <p>学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。(感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)</p>	<p>2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進</p> <p>学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。</p>	<p>「豊かな心と健やかな体を育む教育」の項目では、昨年度に比して保護者の「そう思う」の伸びが顕著で、「そう思う」が23%から47%に倍増し、保護者・児童・教職員三者とも肯定的な評価が90%を越えるなど高い評価を得た。一つ一つの教育活動に全職員で真摯に取り組んできた成果と考えられる。「自分で(から)」ということについては、今年度の学校教育目標にもあり、三者が常に意識して取り組んできたことも高評価の背景にあると考える。主体的な学びがさらに深まるよう、校内研修ともつなげてICTのさらなる日常化、児童の目の輝く授業づくりに全職員で取り組んでいく。</p>
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
<p>3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進</p> <p>学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)</p>	<p>学校のきまりについて、各学級で話し合い、代表委員会等で検討して見直ししていく活動、地域の方々をお招きしてのワークショップ的な活動、校区内の保育園や幼稚園との交流など積極的に行っているが、児童の数値的には肯定的な評価が70%を切った。地域のよさを伝え、課題解決につながる取り組みも、生活科や総合的な学習の時間で行ってきているが、地域により着目した活動を取り入れるなど、総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しにも着手していく必要がある。そして、各クラスでの学級会活動の充実も図り、自分たちで決めたことを実践していくことをいろいろな場で積極的に行っていく。</p>	
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<p>4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</p> <p>学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。</p>	<p>学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。</p>	<p>対話などを通じて、他の人の考えや意見を自分の学びに生かす協働的な学びについては、三者とも肯定的な評価が80%をこえたものの、こどもが学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりについては、肯定的な評価が他の項目に比して低いものであった(保護者68%、児童78%)。学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりすることだけが個別最適な学びではないと考えるが、ドリルパーク等の活用だけでなく、授業づくりにおいてもこどもが自ら判断して選び、決めるような活動を設定していく。</p>
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<p>6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実</p> <p>学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。</p>	<p>7 インクルーシブ教育の推進</p> <p>学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。</p>	<p>どちらの質問項目においても、三者とも肯定的な評価が高いものであったが、児童のインクルーシブ教育の推進の項目のみ、肯定的な評価が80%を切った。こどもたちがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていることが児童の実感にまでつながるよう、教職員の声かけや支援の質を、より多様性を認めた形で高めていく必要がある。</p>

(3) 最適な教育環境の整備

<p>8 安全・安心な園づくりの推進</p>	<p>9 地域や家庭と連携した教育環境の整備</p>																									
<p>学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。</p>																									
<table border="1"> <caption>安全・安心な園づくりの推進に関する回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>肯定的</th> <th>肯定的でない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>45%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>65%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>65%</td> <td>35%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	肯定的	肯定的でない	保護者	45%	55%	児童生徒	65%	35%	教職員	65%	35%	<table border="1"> <caption>地域や家庭と連携した教育環境の整備に関する回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>肯定的</th> <th>肯定的でない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>45%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>45%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>65%</td> <td>35%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	肯定的	肯定的でない	保護者	45%	55%	児童生徒	45%	55%	教職員	65%	35%	<p>安全・安心かつ地域や家庭と連携した教育環境の整備という点では、昨年度に比して保護者の肯定的な評価の伸びが顕著で、昨年度と同様の項目と比すと、「地域や家庭との連携」の項目では20%近くの伸びが見られた。地域や家庭との連携をこれまで以上に大切にしながら、こどもの安全・安心を守る点についても、社会の変化に対応した安全教育の新たな活動にもチャレンジしていく。</p>
対象者	肯定的	肯定的でない																								
保護者	45%	55%																								
児童生徒	65%	35%																								
教職員	65%	35%																								
対象者	肯定的	肯定的でない																								
保護者	45%	55%																								
児童生徒	45%	55%																								
教職員	65%	35%																								

(4) こどものいのちと権利の擁護

<p>10 こどもの最善の利益を守る環境づくり</p>														
<p>学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。</p>														
<table border="1"> <caption>こどもの最善の利益を守る環境づくりに関する回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>肯定的</th> <th>肯定的でない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>30%</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>35%</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>60%</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	肯定的	肯定的でない	保護者	30%	70%	児童生徒	35%	65%	教職員	60%	40%		<p>教職員と児童の肯定的な評価に30%もの開きがあったことを重く受け止め、いろいろな教育活動の場で教師主導の視点が強すぎることはなかったかを真摯に振り返り、こどもの意見をより反映させるような教育活動、こどもが相談したい教員に、相談したいタイミングで相談できるような体制づくりに取り組んでいく。また全学年であらためて「こどもの権利条約」を学ぶ場を位置付ける。</p>
対象者	肯定的	肯定的でない												
保護者	30%	70%												
児童生徒	35%	65%												
教職員	60%	40%												

来年度の具体的な取組について

○全職員が、こどもや保護者、地域の思いを真摯に受け止め、こどもが不利益を被るいじめや不登校、生徒指導上の問題など、トラブルの未然防止を強く意識し、早期発見を心がける。そして、報告・連絡・相談を通じてより組織的な最善の策を取り、職員の対応力をさらに上げていく。

○今後もタブレットを積極的に活用し、ICTのさらなる日常化と、こどものさらなる目の輝く授業、主体的な学びにつなげるために、校内研修を活性化していく。具体的には、児童の思考力、自分の考えを書く力の向上につながる研究授業を計画、実施する。また授業の中に題意を読み取り、具体的なイメージをもたせる活動を位置づける。さらに自分たちで決めたことを実践していく活動をいろいろな教科で位置付けていく。職員の自主的な研究グループの立ち上げも促し、職員の主体的な学びの場をさらに確保していく。

○特別支援教育の理解を深める研修や、子どもの権利条約の周知などを通じて、保護者・児童への啓蒙的な活動を計画・立案・実施していく。保育所等訪問支援事業所の連携も進めてきたが、放課後デイサービス事業者等も含め、外部機関とのさらなる連携促進も図る。

小中学校関係者評価

○最適な教育環境の整備については、評価結果からも進んできているのはわかるが、地域としてもいろいろな形でさらによいものとなるよう協力したい。特に、安全・安心の確保の為防犯パトロールなどを通じて、地域と学校が一体となって進めていきたい。

○歩道がないところでの、放課後のこどもの歩行について、継続的な指導をお願いしたい。

○こどもの笑顔が素敵なので、それが続くよう充実した教育活動を進めていただきたい。

○こどもたちにとって想定外のことが起きるので、命を大切にすることを第一に、いろいろなことを想定して行動できるような力を育てていただきたい。